

ドクター + 教えて

『消化器内視鏡検査』について

磐田市立総合病院

消化器内科 医師 志村 恵理



消化器の病気を早期発見するために重要な検査の一つに、内視鏡検査があります。内視鏡検査にはさまざまな種類がありますが、今回は胃カメラや大腸カメラなどを用いた検査についてお話しします。

健康診断でバリウム検査や便潜血検査を受けた後に要受診となった方には、内視鏡検査をご案内しています。二次検査として内視鏡検査を行うことで、自覚症状が現れる前に病気を発見することが期待できます。

当院独自で行った大腸がんに関する研究では、症状が出てから検査を行った患者さんに比べ、便潜血検査で発見された患者さんの方が、治療後の結果が良いことが示されており、健康診断における検査の重要性がうかがえます。

内視鏡検査を行う際に、鎮静薬（眠気を誘発する薬）や鎮痛薬を

使用しての検査も行っていきます。これらの薬を使用することで検査による苦痛が緩和され、より負担の少ない検査ができます。検査に不安のある方は、一度担当医にご相談ください。

当院では現在内視鏡検査室の整備を行い、より安全・安心に検査が行える環境づくりに努めています。その一環として、昨年12月に患者用トイレを増設しました。

また、女性医師も勤務しているため、これまで検査を躊躇（ちゆうちゆう）されていた女性も安心して検査を受けられます。

病気の早期発見は、その後の治療結果の改善につながります。そろそろ胃や大腸などの消化器の具合を心配する年齢にさしかかってきた方も、この機会に消化器内視鏡検査を受けてみることをぜひお勧めします。

『副作用から患者さんを守りたい』

院外処方箋の臨床検査値について

数年前から全国の病院で院外処方箋に臨床検査値を印字する取り組みが進んでいます。静岡県でも浜松医科大学医学部附属病院や聖隷浜松病院をはじめ、当院でも昨年6月から臨床検査値付きの院外処方箋の発行を開始しました。

副作用は、尿や便、あるいは血液や採取された臓器の一部など、さまざまな形で体にあられます。臨床検査は病気の診断だけでなく、薬の選択や投与量を決める指標にもなります。また、治療経過の確認や重症度の判定、回復の度合いなどにも利用されます。

この臨床検査値を薬剤師が調剤時に確認することで、これまで行っていた用法・用量、併用禁忌、重複投与などの確認のほか、腎機能や肝機能の変化に応じた適正な薬の投与量の調節、検査値異常を示す病態には服用の可否を医師に相談することができま

す。例えば、腎臓の機能が低下している人には痛み止めの種類や量を減らさなければいけませんし、薬や健康

食品の中にも薬剤性の肝障害を起しやすいものもあります。このように、副作用を示す検査値を確認することで、有効な服薬指導にも応用できます。

また、患者さんは自分の検査値に興味を持つことが大切です。熱や痛みといった症状は自分でもわかりますが、ナトリウムやカリウムなどの電解質や炎症反応などは自分ではわからないものです。病院や保険薬局で病気やお薬の話だけでなく、自分の検査結果や数字の持つ意味などもお気軽に聞いてください。

磐田市立総合病院

薬剤部部長

正木銀三



くらしの 田 情報